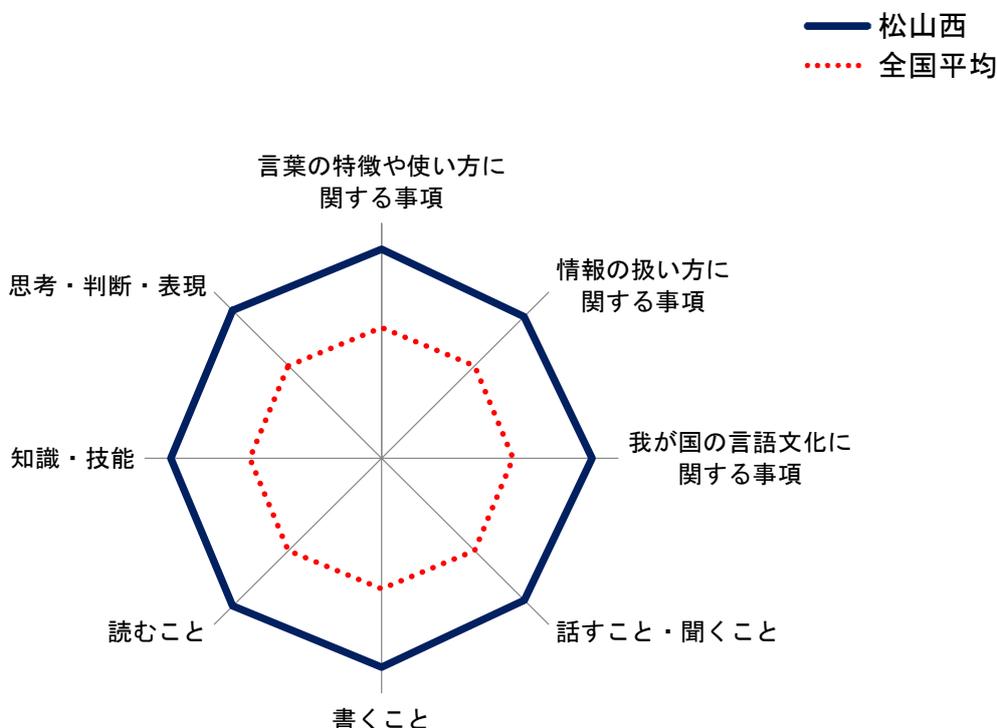


令和5年度 全国学力・学習状況調査  
 (各教科観点別等の状況) 【国語】 結果

松山西中等教育学校

○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

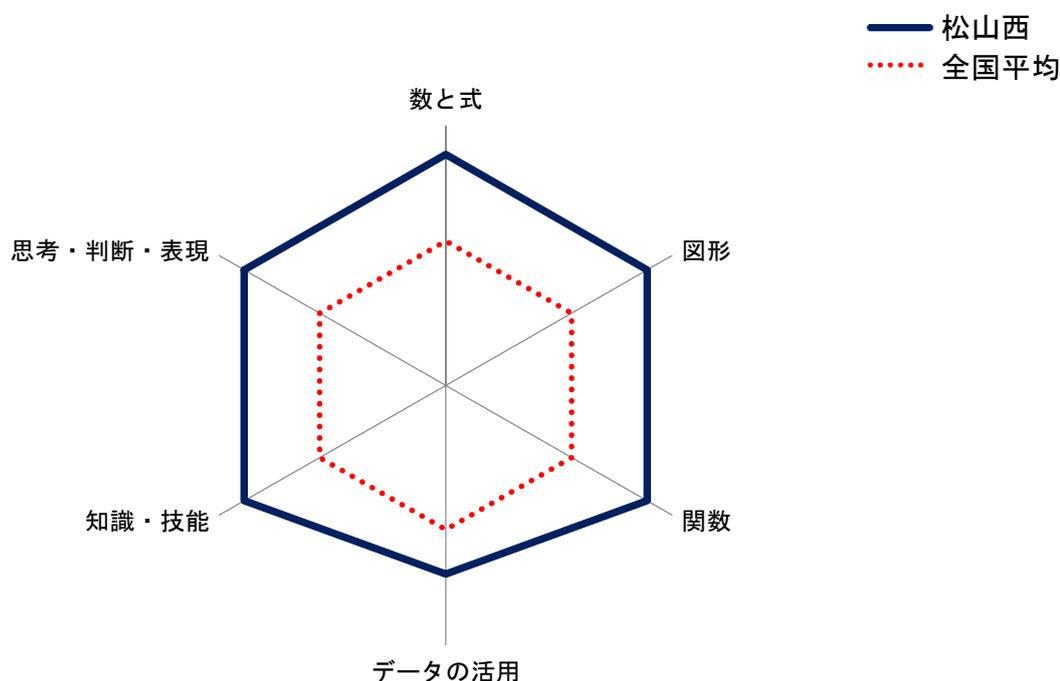


【結果の分析と改善策】

本校の平均正答率は89%と、全国平均 (69.8%) や愛媛県平均 (69%) を大きく上回り、良好な結果となっています。まず、本校の特徴としては、記述式の問題において、無回答率が0%から2% (全国平均では3.9%から20.7%) とかなり低いことが挙げられます。また、国語における3領域について見てみると、本校の平均正答率は「話すこと・聞くこと」は95.6% (全国平均82.2%)、「書くこと」は88.7% (全国平均63.2%)、「読むこと」は86.5% (全国平均63.7%) となっており、全ての領域において非常に高い結果となっています。特に、「書くこと」「読むこと」の2領域については、全国平均が63%程度であるのに対して、本校は87~89%程度の高いレベルを維持できています。グループ学習等における制約が少しずつ緩和される中で、自己の考えを書いたり話したりする活動やクラスメイトの書いたものを批評するような活動を多く取り入れたことで、「書くこと」の力が涵養されてきているのではないかと思います。

問題別に分類すると、2二「二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する」の本校の平均正答率が90.7% (全国平均63%)、4三「現代語で書かれた『竹取物語』のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」の本校の平均正答率が78.7% (全国平均50%) となっており、文章を比較してその差異や共通点等から思考するような問に対して、高い正答率を得ることができています。今後もこのような「思考・判断・表現」の観点における読解力の伸長に力を入れていきます。一方で、1二「インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する」においては、本校の平均正答率が65.3% (全国平均65.1%) と低く、情報の扱い方に関する「知識・技能」に乏しい点が見受けられました。他教科の学習内容等も含めて、確かな知識の定着に向けた指導が必要だと思われまます。

○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)



【結果の分析と改善策】

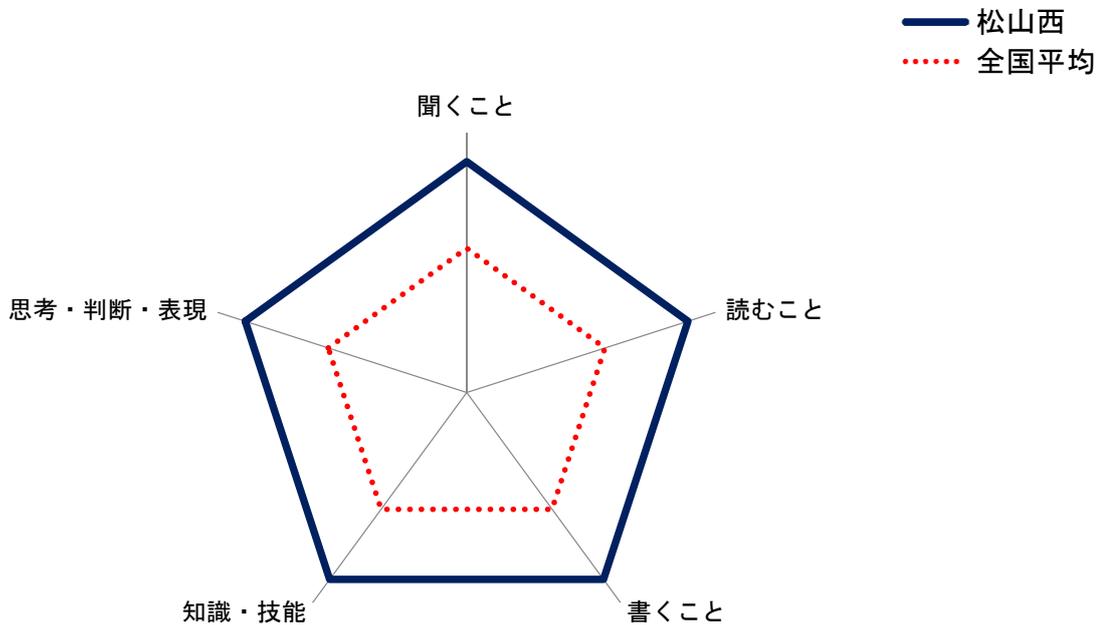
本校の成績を全国及び愛媛県全体の平均と比較すると、領域別では、「数と式」において26ポイント、「図形」において29ポイント、「関数」において32ポイント、「データの活用」において8ポイント高い結果となっています。評価の観点においても、「知識・技能」において21ポイント、「思考・判断・表現」において32ポイント高い成績となっています。例年と比較しても同程度の、高い成績だと感じます。詳細についてみると、「数と式」、「データの活用」において若干の下落、「図形」、「関数」において若干の上昇となっています。

本校で継続して取り組んでいる「日々の課題」や「週末課題」の効果は着実に上がっていると思います。また、今年度は「超日々の課題」と題して、応用問題の記述力向上にも積極的に取り組んでおり、「図形」や「関数」の問いに対して効果が上がっていると思われます。課題は、昨年引き続き「データの活用」の記述力について、他の分野と比較すると正解率が高くない点です。特に、2つのデータを比較して導かれる結論を説明する問いにおいて、既習事項である数学用語を活用して説明することが十分ではない解答が多いです。「データの活用」の分野に限らず、論拠を数学用語の活用によって説明する技能を授業でより強調することにより定着させていきたいと考えています。また、正解数が少なかった生徒については、教科書の内容でのつまずきがあるため、単元別テストや前期生のまとめのテストの際の指導を充実させていきたいと考えています。

令和5年度 全国学力・学習状況調査  
(各教科観点別等の状況) 【英語】 結果

松山西中等教育学校

○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)



【結果の分析と改善策】

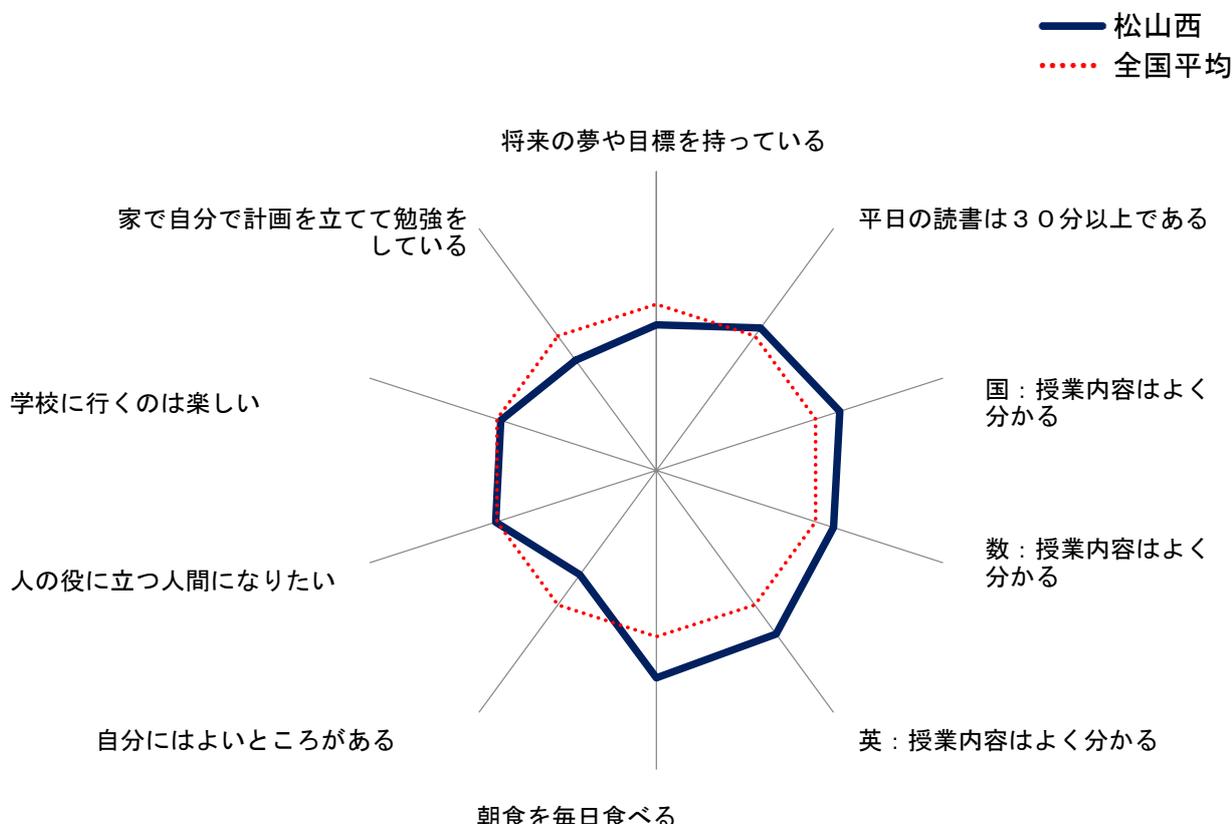
平均正答率についてですが、全国平均が45.6%、愛媛県平均が43%に対し、本校の平均は72%と、愛媛県平均、全国平均を大きく上回り、良好な結果でした。学習指導要領の領域ごとにみても、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、それぞれの分野において全国平均を大きく上回っています。特に、「書くこと」における「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる」問題では、全国平均を約40ポイント上回っています。ただ、「聞くこと」や「読むこと」における「社会的や日常的な話題について、短い文章での要点を捉えることができるかどうかをみる」問題では、全国平均を約15ポイント上回っているものの、まだまだ課題が多く、これからの授業を通して、与えられた英文を聞いたり、読んだりして、その概要をまとめていく力を身に付けていく必要があります。

今後も4技能5領域の英語力をバランスよく身に付けるよう、指導に努めていきたいと考えています。

令和5年度 全国学力・学習状況調査  
(学習や生活の状況) 結果

松山西中等教育学校

○ 生徒質問紙調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



【結果の分析と改善策】

家庭生活に関する内容では、一日当たりの勉強時間や読書時間、新聞を読む、朝食を毎日食べる等の質問で全国平均より良好な結果が出ており、本校生徒が基本的な生活習慣を確立し、望ましい家庭生活を送っている様子がうかがえます。「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた割合が全国平均より低くなっていますが、日々の課題をきちんとなしている生徒が多い本校では、それ以上に学習計画を立てて勉強しなくてはならないと考えているのではないかと思います。また、「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」の質問で、肯定的な回答が全国平均よりやや低くなっています。時間がない中でやりたい勉強に手が回らなかったり、興味・関心のある分野への刺激が減っていたりすることが原因として考えられます。各教科の学習や学校行事、探究活動を充実させる中で、自信を深める体験や進路選択に必要な学びの機会を提供していきます。一方で、地域の行事へ積極的に参加し、地域や社会をよくするためにできることを考えるなど、学校と家庭だけでなく、地域や海外へと視野を広げて生活している生徒が多い結果となっています。引き続き、体験的活動や話し合い活動を充実させ、多様な意見に触れる中で自らの考えを深めて発信する機会を増やし、後期課程においても自己肯定感の伸長を図るとともに、地域の中心となって主体的に活動する生徒の育成に努めます。

学習面では、国語、数学、英語ともに、「授業が好き」「授業が分かりやすい」と答える生徒が多く、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえます。学習への取組について、「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と多くの生徒が答えており、課題意識をもって学習を進めています。学習内容を社会と結び付けて深く理解し、生涯にわたって能動的に学び続けていく力を育成するために、物事を捉える視点や考え方をより深めた教科指導を進めていきます。また、ICT機器を効果的に活用して学びの質が高まるように努めます。